

クロガネモチ、カラタネオガタマのさし木について

宮崎県林業試験場 深江 伸 男
細山田 典 昭

1. はじめに

緑化樹の中には需要が大きく見込まれながらも、増殖困難な樹種がかなりみられる。

ここでは、クロガネモチとカラタネオガタマについて、硝酸銀、IBA（インドール酪酸）およびメネデルによるさし木増殖試験をおこなったので、その結果を報告する。

2. 材料と方法

クロガネモチは栄養枝の萌芽枝を当年生枝（頂芽をつけたまま）と2年生枝（頂芽部分を切除）に分けて穂作りし、カラタネオガタマは栄養材の当年生枝（頂芽部分を切除）だけの穂作りをおこなった。さし穂の条件は表一のとおりである。

表一 さし穂の条件

樹種	クロガネモチ				カラタネオガタマ
	約30年生		約20年生		
親木の年齢	約30年生		約20年生		7年生
穂木の種類	栄養枝		萌芽枝		栄養枝
穂木の年齢	当年生	2年生	当年生	2年生	当年生
穂長(cm)	12~15	13~16	12~15	13~16	12~15
切口径(mm)	3~4	3~6	3~4	3~6	3~4
さしつけ	1974.7.12		1973.6.22		1974.7.12
ほりとり	1975.3.28		1974.3.22		1975.3.28

供試薬剤と、その処理方法は表二のとおりで、試験区はこれら薬剤の単用および併用処理区を穂木年齢別に設けた。

試験規模は、クロガネモチ栄養枝は各試験区10本の2回反復、クロガネモチ萌芽枝は10本の反復なし、カラタネオガタマは20本の2回反復でおこなった。

さしつけは温室内に設けた鹿沼土のさし床に苗間5cm、列間5cm、深さ5cmの案内棒さしでおこなった。

表二 供試薬剤と処理方法

記号	薬剤	処理方法
C	無処理	さし穂基部を16時間水に浸漬
I ₂	IBA 2%粉	さしつけ時に基部に粉衣
I ₁₀₀	IBA 100ppm液	基部を16時間浸漬
M ₁₀₀	メネデル100倍液	基部を16時間浸漬
A _{90.025}	硝酸銀0.025%液	基部を7時間浸漬

注)メネデルは商品名で、2価鉄イオンの含有液

さしつけ後、2カ月間は7~8時に $\frac{20}{30}$ 秒、8~17時に $\frac{20}{20}$ 秒、17~19時に $\frac{20}{30}$ 秒、その後、掘り取るまで7~18時に $\frac{20}{30}$ 秒でミストかん水した。一部、密閉さしをおこなったが、これは植木鉢の上部をさしつけ後、ビニール袋をとりさり、その後、過宜かん水した。

3. 結果と考察

さしつけ後、約8カ月目に掘りとり、発根率生存率および根数を調べた。調査結果は表三のとおりである。

クロガネモチ栄養枝は、当年生枝、2年生枝とも対照区の発根は全くみられなかったのに対し、IBA 100ppm液処理区は当年生枝で35%、2年生枝で40%と、いずれも全処理区の中で最高の発根率を示した。メネデル処理はIBA処理に劣り、硝酸銀処理は切口腐れを起こし、発根率向上には結びつかなかった。

クロガネモチ萌芽枝は当年生枝のIBA 2%粉処理区で70%、2年生枝では対照区、IBA 2%粉処理区とも60%と、栄養枝に比べかなり高い発根率が得られた。

カラタネオガタマはメネデル100倍とIBA 100ppmの混合液による密閉さし区が発根率73%と最も高く、ついでIBA 100ppm液区の70%の順で、対照区でも55%の発根率を示した。しかし、対照区の根数

はわずか2.1本と少なく、それに対し、発根促進処理区は11~17本と著しい根数増加がみられた。硝酸銀処理はクロガネモチと同様に切門腐れを起こし、逆に発根率は低下した。

以上、クロガネモチについては萌芽枝で高い発根率を期待できるが、現段階では萌芽枝利用は余り望めず、実用性には乏しいと思われる。また、栄養枝、萌芽枝とも発根促進処理にもかかわらず移植後の活着、生

育が思わしくない。発根率とともに根数増加についても、さらに検討する必要がある。カラタネオガタマについては、密閉ざしでミストかん水と同等あるいは、それ以上の高い発根率が得られた。これは密閉ざしが蒸散防止の効果を充分果たしたものと考えられる。ミストかん水に比べ、施設、管理の点から実用性はあるものと思われる。

表—3 クロガネモチ、カラタネオガタマの発根性

穂木の種類	樹種	クロガネモチ						カラタネオガタマ		
	穂木年齢	当年生			2年生			当年生		
	項目 試験区	発根率(%)	生存率(%)	根数(本)	発根率(%)	生存率(%)	根数(本)	発根率(%)	生存率(%)	根数(本)
栄養枝	C (対照区)	0	15	0	0	5	0	55	55	2.1
	I_{100}	35	50	3.2	40	40	7.1	70	70	11.1
	M_{100}	20	40	7.0	0	0	0	—	—	—
	$(I_{100} + M_{100})$	30	40	4.3	35	35	6.7	55	55	16.2
	$A_{90-025} + I_{100}$	0	10	0	5	20	1.0	48	50	6.2
	$A_{90-025} + (I_{100} + M_{100})$	5	20	2.0	0	5	0	33	38	6.4
	$(I_{100} + M_{100})$ 密閉ざし	25	35	8.2	—	—	—	73	73	16.8
萌芽枝	C (対照区)	30	60	7.7	60	70	6.1	—	—	—
	I_2	70	70	5.7	60	60	6.5	—	—	—

注) $(I_{100} + M_{100})$ は I B A とメネデールの混合液処理